

## 麻酔科・ペインクリニック

### ■ スタッフ

科長	賀来 隆治
医師	8名
鍼灸師	1名
公認心理師	1名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 1. 特色

##### 1) 統合医学的アプローチ

当外来は、慢性疼痛、運動器疼痛、癌性疼痛といった、難治性を含む種々の疼痛の治療を行うとともに、広範囲の様々な身体症状や精神症状に対し、診療をおこないます。

#### 2. 主な診療対象疾患

##### 1) 神経障害性疼痛

帯状疱疹後神経痛、有痛性糖尿病性神経障害、絞扼性末梢神経障害、脳卒中後痛、脊髄障害性痛、幻肢痛、腕神経叢引き抜き損傷後痛、複合性局所疼痛症候群などがあります。様々なアプローチを併用します。

##### 2) 筋・筋膜性痛症候群

骨格筋・筋膜が、持続的緊張・収縮によって局所循環不全をきたすと、その部位に発痛物質が蓄積し痛みとなります。痛み刺激が脊髄に入ると、反射的に運動神経や交感神経を興奮させるので、筋収縮や血管収縮、局所循環不全がさらに悪化します。この痛みの悪循環路が病態と考えられています。

##### 3) がん性疼痛

薬物治療やブロック等を併用し、痛みの原因にかなった治療をします。患者さんと家族の様々な問題を視野に、関連各部門と連携し多職種で対応します。

##### 4) 顔面・頭部の痛み

多様な疾患に対し、原因に応じた治療を行います。痛み以外では、突発性難聴、アレルギー性鼻炎等については、星状神経節への働きかけが有効です。

##### 5) 胸・腹部の疾患、頸・肩・四肢の痛み

内臓の痛みは、体幹に現れることがあり、同部の筋肉痛に対する治療で改善することがあります。会陰部痛、外傷性頸部症候群、頸肩腕症候群、肩関節周囲

炎、坐骨神経痛、変形性膝関節症、四肢の血行障害の痛み、術後疼痛症候群等、様々な疼痛に、ブロックや、薬物療法等を行っています。

#### 6) 脊椎疾患

多種多様な疾患があります。整形外科をはじめ、関係部門と連携した病状把握が大切です。ブロック、理学療法、薬物療法等を併用しています。

#### 7) 鍼灸外来の対象疾患・対象症状

対象は多岐にわたります。肩こり、腰痛、膝痛、その他の関節の痛みやしびれの他、だるさ、不眠、冷え、食欲不振といった身体の不調、癌の化学療法の吐き気や、膵臓癌の背中での痛み、突発性難聴など、挙げればきりがありません。西洋医学的な異常が見つからない場合でも、苦痛や不快感、ストレスを感じる患者さん、または薬剤使用に抵抗がある場合や、薬剤が副作用で使えない場合にも、代替医療として用いられます。入院中の患者さんにも、積極的に関与します。

### ■ 診療体制と実績

診療時間は、ペインクリニック外来が月火木金の午前と、月金の午後です。鍼灸外来は水金の午前と月火水木金の午後です。今後、変更の可能性があります。

ペインクリニック専門医、公認心理師が在籍しており、鍼灸師は国家資格取得者です。

(受診のべ数 6006\* 5625\*、症例数 662\* 419\*。)

\* ) 2022/4/1~2023/3/31 での集計です。

※ ) 2021/4/1~2022/3/31 での集計です。

### ■ 診療内容の特色と治療実績

#### 1) ペインクリニック外来

各種方法を併用します。薬物療法では、痛みの発生機序に応じ、薬剤を使っています。

(受診のべ数 4716\* 4141\*、症例数 584\* 355\*。)

(処置数は、ペインクリニック外来と痛みセンターの合計です。腰部硬膜外ブロック 345\* 236\*件、トリガーポイント注射 296\* 413\*件、星状神経節ブロック 244\* 375\*件、脊髄神経前枝神経ブロック 90\* 54\*件、仙腸関節枝神経ブロック 72\* 47\*件、頸神経叢ブロック 44\* 5\*件、頸・胸・腰椎後枝内側枝神経ブロック 44\* 43\*件、腕神経叢ブロック 43\* 64\*件、仙骨部硬膜外ブロック 41\* 116\*件、胸部傍脊椎神経ブロック 40\* 52\*件、眼窩下神経ブロック 23\* 12\*件、関節腔内注射 18\* 16\*件、おとがい神経ブロック 17\* 21\*件、肩甲上神経ブロック 13\* 2\*件、神経

根ブロック（局麻） 12\* 19\*件、眼窩上神経ブロック 9\* 6\*件、胸部硬膜外ブロック 7\* 3\*件、大腿神経ブロック 7\* 6\*件、腰神経叢ブロック 2\* 12\*件、肋間神経ブロック 2\*件、後頭神経ブロック 1\*件、頸部硬膜外ブロック 1\*。神経ブロック（神経破壊剤・高周波凝固法等） 31\* 28\*件。その他消炎鎮痛処置等 973\* 1595\*件。）

## 2) 鍼灸外来の対象疾患・対象症状

「四診」を行います。「問診」で、症状や生活習慣、体質、体調などを聞き、「望診」で、全身状態、局所状態などを見、「聞診」では声音、呼吸などを聞き、「切診」では脈や体表に触れることで必要な情報を収集します。状態から経穴（ツボ）を選択し、鍼（ハリ）や灸を用いて施術します。症状と向き合うため、40～60分の診療となりますが、患者さん自身はほとんど横になっているだけです。安全性と有効性を考慮しつつ、伝統医学を現代西洋医学の現場に取り入れることで、統合的な治療とケアを目指しています。（受診のべ数 983\* 1378\*、症例数 119\* 116\*。）

## 3) 癌関連疼痛

「生命を脅かす疾患に伴う問題」に直面する患者と家族が対象です。チーム医療を念頭に、関係各部門と連携し、多職種で対応します。癌治療中の安定期や癌治療後の麻薬減薬症例、及び、癌と無関係の慢性疼痛症例を含みます。（受診のべ数 253\* 300\*、症例数 19\* 18\*。）中でも、緩和領域での鍼灸師の広範な関与は、当院の特徴の一つとなっています（癌関連疼痛での受診のべ数のうち 55\* 148\*件が鍼灸です）。

## ■ 臨床研究等の実績

- ◇ 慢性疼痛でのオピオイド減量の経験が豊富です。
- ◇ 痛みと鎮痛のメカニズムの研究を行っています。
- ◆ 文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム（慢性の痛みに関する領域）；三重大学・鈴鹿医療科学大学合同「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業（H28～R2）」をきっかけとし、多職種連携をキーワードとした教育活動を展開。両大学の多様な学科で、学部教育の早期に、プログラムを実施。卒後、地域で慢性疼痛医療のリーダーとなれる人材の育成を目指しています。

(<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/chrpain/>)

▶ [http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/masui\\_painclinic/](http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/masui_painclinic/)